

## 投資の基礎講座 「投資信託を選ぶために」

CFP®認定者  
日本FP協会群馬支部副支部長 大谷 明

国内の投資信託は2006年1月末現在公募投信だけで残高58兆円、2,705本(投資信託協会)あります。このなかからどの投資信託を選べばよいのでしょうか。証券会社や銀行などから勧められるままに選んではいませんか? 投資信託を購入する際、必ず「目論見書」を読むことが大切です。とほいうものの数10ページから物によっては100ページを超えるものもありとても全部読むことはできないと思います。

目論見書の最初のほうに「ファンドの概要」というページがあり「ファンドのねらい」(あるいは「運用の基本方針」と「主な投資対象」という項目があります。ここにはその投資信託の一番重要なこと(私見ですが)が書いてあり、そのファンドが自分の目的に合っているものなのか、そうではないのかを判断するポイントになります。

『ファンドのねらい』に「わが国の株式市場の動きと長期成長をとらえることを目標に、日経平均株価(日経225)に連動する投資成果の獲得を目指します。」と書いてあれば、日本の株式相場の上昇を期待するファンドですから、株価の変動を好まない人や日本の株式相場が上昇しないと思っている人は投資対象からはずすこととなります。あるいは、『主な投資対象』に「わが国の公社債を主要投資対象とします。」とあれば、日本の国債や社債に投資しますから株式の動きとはあまり関係がなく、リスク(変動の大きさも)それほど大きくないだろうと判断できます。

もっとも比較的短い言葉で説明されていますから、わからないことは窓口や担当の人に理解できるまで聞いてみましょう。

### 先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	15,877.66円	16,184.87円	15,713.45円	15,713.45円
TOPIX	1,618.01	1,635.24	1,605.33	1,605.33
東証1部単純平均	538.60円	541.38円	523.99円	523.99円
東証1部売買高	2,263,408千株	2,408,754千株	1,746,081千株	1,953,378千株
ニューヨークダウ平均	10,892.32ドル	11,120.68ドル	10,892.32ドル	11,115.32ドル
NASDAQ	2,239.81	2,305.62	2,239.81	2,282.36
10年国債利回り	1.550%	1.595%	1.510%	1.510%
債券先物中心限月	136.21円	136.47円	135.87円	136.47円
無担保コールO/N	0.002%	0.002%	0.001%	0.001%
円TIBOR 1ヶ月	0.06273%	0.06273%	0.06273%	0.06273%
円TIBOR 3ヶ月	0.10545%	0.10545%	0.10545%	0.10545%
ドル/円相場	117.87円	117.91円	117.28円	117.91円
ユーロ/円相場	140.29円	140.29円	139.71円	140.10円
1ユーロ=ドル	1.1900ドル	1.1913ドル	1.1882ドル	1.1882ドル
米国FFレート	4.5000%	4.5625%	4.4375%	4.5000%
米国10年国債利回り	4.57%	4.61%	4.53%	4.53%

### スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成18年2月20日現在

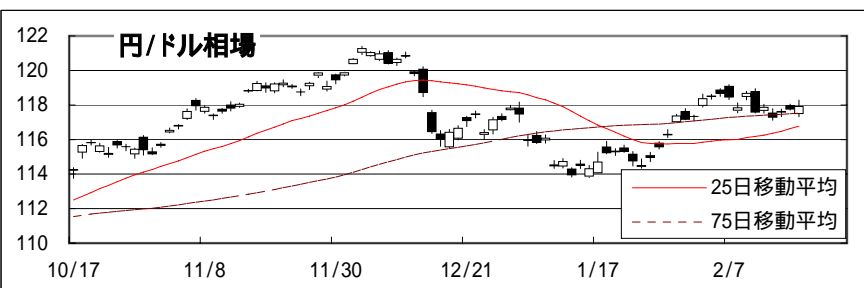
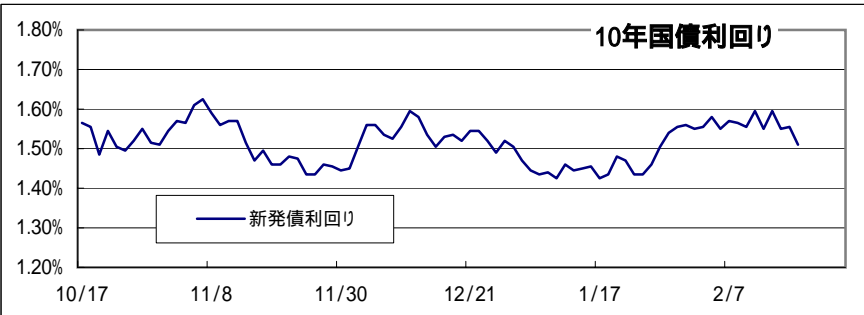
	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.04%
東和銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.04%
高崎信用金庫	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.05%
郵便局	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.04%

### イールドカーブ(利回り曲線)のフラット化

一般に、金利(利回り)は期間が長いほうが高い傾向にあります。この金利と期間の関係をグラフに表したものを「イールドカーブ(利回り曲線)」といいます。

最近、世界的にこのイールドカーブがフラット化(長短金利差が縮小)してきています。日本でも長短金利の差が縮小して「フラット化」してきています。これは、中短期金利は「金融緩和解除早期解除」観測の高まりから上昇しつつありますが、10年を超える金利は相対的に高い金利収入が得られること、あるいは「変動利付国債」のリスクヘッジのため超長期債を購入する意欲が強いこと、デフレ脱却が早期には進まないとの思惑などが働いているようです。

ちなみに、米国では、FF金利(短期金利)、2年、5年、10年、30年の国債利回りはそれぞれ4.50%、4.66%、4.55%、4.54%、4.51%と長期金利のほうが低い「逆イールド」の状態になっています。



### 今週の株式相場見通し

先週の株式相場は、外人投資家が売り越し基調となっていることや上値の重さを嫌気して利益確定の売りが出てきたことなどから総じて軟調な展開となりました。

今週の株式相場は、引き続き弱含みの展開が予想されます。先週末に10-12月期のGDPが発表され景気の上昇傾向が確認されたことから大きく売り込まれることはないと思いますが、相場上昇を支えていた外人投資家の売り越しに転じてきていること、新興市場が軟調で個人投資家の買い余力が乏しいことから暫く調整場面が続くものと思われます。

好業績株は比較的確りしており、業績重視の投資が続くものと思います。また、3月決算が近いことから配当利回りの高い銘柄が物色されやすくなっています。

### 今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、金融緩和解除を睨み短期債が売られ、一方相対的に利回りの高い長期債・超長期債には外人投資家や生保などの買いが続きました。30年国債は2年ぶりに2.15%まで低下しました。

今週の債券相場は、短期ゾーンについてはほぼ調整が終了し利回りの上昇はないものと思います。一方長期ゾーンは株式相場が軟調な展開となりそうなことや米国の長期金利も低下傾向が続いていることから買い優勢の展開となりそうです。

先週の為替相場は、週末のGDP発表待ちで模様眺めの展開となりました。

今週の円相場は、予想を上回るGDPの発表にも拘らず、円が大きく買われなかったことや米国の利上げがあと2回程度行われそうなおことからドル買いが優勢になりそうです。

本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものです。その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイド ファイナンシャル プランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。